

今月の星空

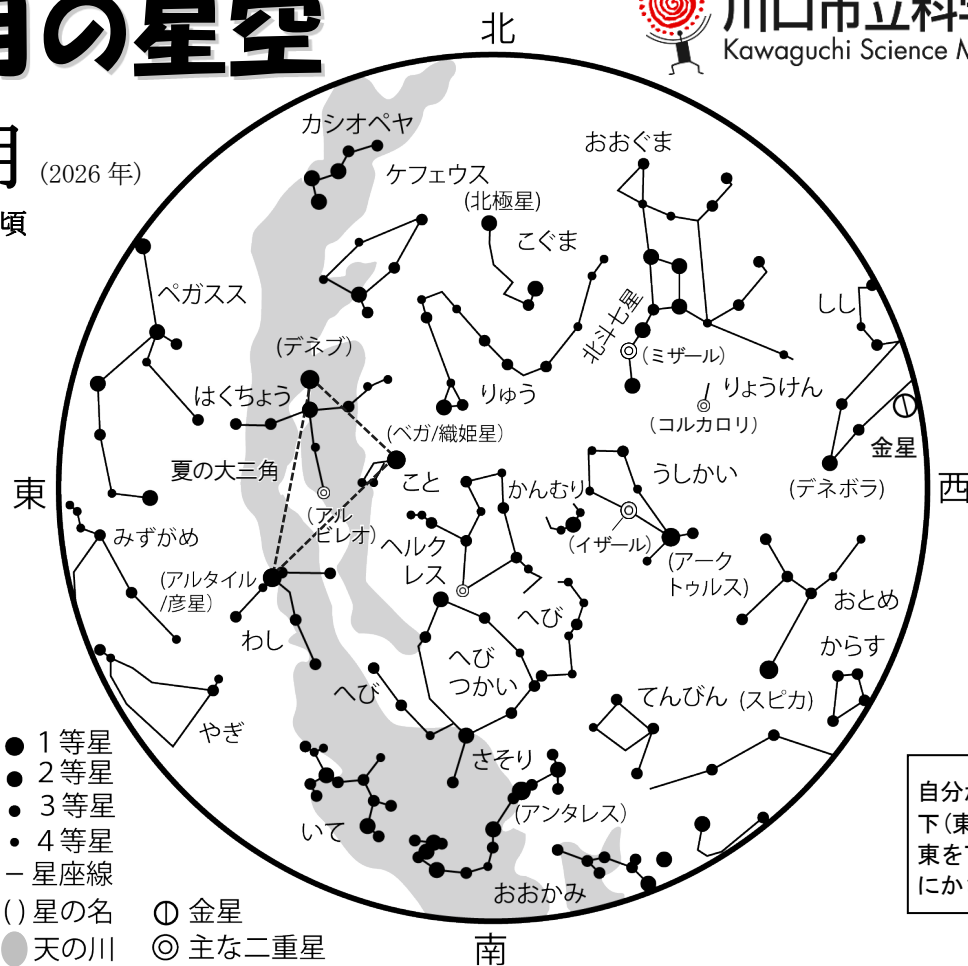


川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

7月 (2026年)
中旬 21 時頃



月 齢 ○下弦 8日、●新月 14日、◐上弦 21日、○満月 29日

惑星情報 金星 日の入り後 西(しし座 -4等) 火星 日の出前 東(おうし座 1等)

土星 日の出前 南東→南(うお座 1等)

★夏の星空の幕開けはさそり座から

梅雨が明ける頃、しばらくぶりに夜空を見上げると、舞台の幕が上がるように、いよいよ夏の星座たちが出そろいます。舞台の中央、南の空に躍り出るのはさそり座です。S字に連なる星の並びが特徴の星座で、目印は、さそりの心臓を意味するコル・スコルピイとも呼ばれるアンタレス。赤みがかかった1等星で、中国では大火、日本でも赤星や酒酔い星など、色の特徴を捉えた呼び名があります。西へと目を向ければ、うしかい座のアークトゥルスと金星、東に目を向ければ、夏の大三角が目を引き存在でしょう。

★個性派ぞろいの夏の大三角～あなたの推しはどの星？～

こと座のベガ…0.0等の輝きは夏の星座随一。七夕の織姫星(織女星)。川口市での正中高度*…87度は、1等以上の明るさを持つ恒星の中で最も天頂に近い。地球からの距離は約25光年。

わし座のアルタイル…ベガに次ぐ0.8等。七夕の彦星(牽牛星)。この星は約9時間周期の高速で自転するため、赤道方向に大きく膨らんだ楕円体になっている。地球からの距離は約17光年。

はくちょう座のデネブ…3つの中で最も暗い1.3等だが、地球からの距離は、他の2つに比べて桁違いに遠い約1400光年。その正体は太陽の約6万倍の明るさで輝く白色超巨星。

*正中高度…星などの天体が最も高く昇る(=天の子午線を通過する)ときの地平線からの高さ。南の空で天の子午線を通過するときは南中と呼ばれることが多い。その他、デネブ…80度、アルタイル…63度、アンタレス…28度。

★小惑星トリフネってどんな姿?～「はやぶさ2」拡張ミッション～

2020年12月、小惑星リュウグウからのサンプルリターンに成功した「はやぶさ2」は、現在も航行を続け、拡張ミッションに移行しています。その第1弾が7月5日に予定されている小惑星トリフネ*へのフライバイです。天体に留まって観測する「ランデブー」ではなく、今回は、この小惑星に秒速5km(時速1万8千km)ほどの高速で接近し、通過しながら観測する「フライバイ(接近通過)」探査を行います。最接近時は約1,000mの近距離を通過する予定なので、トリフネの詳細な画像に期待しましょう。

*推定直径約500mで詳細は不明。「トリフネ(天鳥船)は日本神話における神。また、神が乗る船の名前でもあり、鳥のように速く、岩のように安定して航行できる船。2024年、はやぶさ2の安全を祈念して命名された。